

1 学校教育目標
自分らしく 元気に 持てる力を精一杯発揮し 人と関わりながら 主体的な学びを生活につなげる 児童生徒の育成

2 本年度の重点目標
<p>＜かがやく児童生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○元気で笑顔あふれる児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・(教務・研修) 活力あふれる児童生徒の育成に向けた日々の授業の充実 ・(保体) 心身の健康増進と体力の向上、食育の推進と保健指導(性教育)の充実 ・(進路指導) 児童生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育、進路支援の充実 ○仲間と仲良くする児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・(生活指導) 「認め合い、ほめ合い、励まし合い、助け合う」心の育成 「天草支援学校いじめ0宣言」を守る児童生徒の育成 ・(人権教育) よりよい人間関係作りを目指した人権教育の推進 ・(保体) 「いのちを大切に」を育む指導の充実 ○主体的に活動に取り組む児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・(教務) 学校・学部教育目標、年間指導計画等の根拠に基づく教育実践 ・(教務・研修) 児童生徒の実態を踏まえた諸計画の的確な立案と授業における具現化 ・(生活指導) 児童生徒会活動の充実、児童生徒の主体性を最大限に尊重した教育活動 <p>＜かがやく学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に信頼され、地域とともにある学校 <ul style="list-style-type: none"> ・(保体・防災・事務) 安心・安全な学校づくりの推進と防災体制の強化 ・(教育支援) 特別支援教育のセンター的機能発揮のための諸事業の推進 ・(総務) 学校運営協議会及びC Sの継続と深化 ○学習環境の充実と環境教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・(教務・研修) 小・中・高の連携と各学部の持ち味を生かした教育の展開 ・(保体) 組織的な環境教育の実施と評価 ・(情報) I C Tの活用による学力の向上及び校務の効率化 ・(保体・事務) 花と緑の環境づくり推進 ○教職員間の協働 <ul style="list-style-type: none"> ・(総務) 業務のスリム化と分掌部及び学部間のつながりと情報共有が可能となる組織的運営 ・(研修) 専門性の維持・向上に向けた研究、研修体制づくり <p>＜かがやく地域＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流及び共同学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・(総務) 近隣小中高等学校等との交流の充実 ○各関係機関及び高等部移設に伴う関係部署との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・(教育支援) 校内支援体制の充実と天草地域特別支援連携協議会及び関係機関との連携 ・(総務) 天草拓心高校との連携及び地域理解の推進 ○コミュニティ・スクールによる地域連携の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・(C S・総務) 本校の教育活動における地域人材活用の推進 ・(研修・教育支援) 地域資源を活かした授業づくりの推進及び地域貢献 ・(防災) 地域や近隣高校と連携した防災体制の継続

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安全・安心な学校づくり	・衛生管理・安全管理を徹底することができた。	・校内外の安全に関する事案を児童生徒や職員に周知し、事故防止啓発に努める。 ・長寿命化工事に伴い児童生徒が安全に教室間の移動や授業ができるように環境	・ヒヤリハットの報告結果や社会的な事象をもとに児童生徒、職員に対して注意喚起をする。 ・児童生徒の動線を確認し危険箇所などを想定して環境整備や注意喚起を行う。	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成。ヒヤリハット様式をデータベース化し、高等部と小中学部の場所的隔たりを埋めたことで、学部を越えて継続した指導が具体化した。 ・工事動線を教職員が理解し、危険性を把握することから、教職員は想像力を持ち危機管理能力を身に付けることができた。 <p>【課題】年度当初から早急な個々の児童生徒の特性</p>

			整備などを図る。			等の理解と新規工事の状況を踏まえて、新規転入職員の危機管理意識を促す必要がある。
		・危機管理に係る体制整備及び情報発信ができたか。	・実施した訓練の検証結果や本校の実情を踏まえ、「危機管理マニュアル」の見直しや更新を行う。 ・保護者や教職員の防災に関する連携強化及び意識向上を図る。	・各訓練後の教職員アンケートを集約し、マニュアルとして必要視される事項を吸い上げ、「危機管理マニュアル」へ反映させる。 ・定期的に保護者・教職員向けに防災通信を発行し、危機管理や防災に関する情報を積極的に発信・共有する。	A	【成果】 ・具体的目標は達成。教職員全員がマニュアル作成に携わる仕組みを検討したことで、学校の地形や地理的危険度を自分事として捉えることができ、学習活動中の危機管理が常態化された。 【課題】 ・「危機管理マニュアル」が充実する一方で内容が濃くなり読み込みに時間がかかる。教職員が瞬時にポイントを確認し対応できるよう、「ピックアップ掲示物」作成を次年度に計画している。
業務改善 ・働き方改革	・効率的な業務遂行によって時間外勤務を抑制することができたか。	・正規の勤務時間以外の従事時間の平均値を前年比から5%縮減につなげる。	・業務整理等を通して業務負担の軽減策を講じる。 ・効率的な業務遂行に係るモデリングを示しながら、教職員の意識改革を図る。	B	【成果】 ・具体的方策は実施。管理職等が率先し教職員の意見を聞き業務改善を行った。 【課題】 ・45時間を越え80時間を越えない者の割合は前年度比とほぼ横ばい。今後物理的時間の確保の限界を踏まえて、校務の仕組みや役割分担を検討する時期にさしかかっている。	
	・風通しの良い職場づくりに努め不祥事を防止することができたか。	・教職員の困り感等を含めた状況を把握・共有し合い、よりよい改善策を積極的に講じて、職場改革につなげる。	・よりよい学校・職場づくりアンケート等を実施して、教職員の困り感及び業務改善策を集約・整理し、衛生委員会や運営委員会等を活用しながら、実動に移す。	B	【成果】 ・具体的方策は実施。アンケートや個別面談の実施から教職員が意見しやすい職場環境の整備ができた。特に教員歴の短い教職員には有効な手段となった。またわかりやすい掲示物を作成し、衛生委員会協議内容を教職員と共有した。 【課題】 ・勤務時間を短縮しようとする意識が起因し、短時間での効果的な打合わせや、簡易の相談に躊躇する様子がある。職員夕会等で教職員が声に出して互いに協議できる環境整備を強化する。	
学校の取組等に係る情報発信	・学校行事等を中心とした取組の様子をHP等で積極的に情報発信することができたか。	・HP更新の年間計画を作成し、定期的な情報発信を行う。	・学校HPの項目の整理を行い、各学部の取組についてより多くの人に情報を発信する。	A	【成果】 ・具体的目標は達成。HPや携帯電話等による保護者連絡システムを活用し、保護者が学校の様子を知ることができる環境整備が実現した。 【課題】 ・今後は効果性を勘案し、連絡システムに頼る場面	

						と、紙面での周知の使い分けを検討しながら連絡体制を整えていく必要がある。
授業の充実	質の高い授業づくりにつながるカリキュラム・マネジメントの推進	・児童生徒の実態に即した教育課程であったか。	・児童生徒の実態に即した年間指導計画（単元配列表）であるか、実践及び評価を行い、改善につなげる。	・年間指導計画（単元配列表）の作成・修正等を行いながら、児童生徒のよりよい教育活動計画のツールとしての機能性を向上させる。	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成。単元配列表をとおして系統だった授業展開と授業計画が実現し、児童生徒の学びに向かう授業展開につながった。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・学期途中のやむを得ない単元配列変更に伴う、授業と評価の一体化や、教員間の十分な共通理解及びその後の確実な事務処理ルート確立を図る必要がある。
		・各学部ニーズに応じた研究を通して、教育課程の改善及び授業実践力の向上を図ることができたか。	・職員一人一人が現在の課題を意識し、職員間で共有し、課題解決に向けて実践を進めることで、教職員の専門性の向上を目指す。	・各学部の実態に応じて課題設定や学部研を実施し、実践を行う。各学部の実践を年3回の通信にまとめて全体共有を行う。	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成。「プログラミング的思考」の観点を全教職員が共有し学習活動に汎化した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は本年度の取組を土台に、全職員が確実に取組内容を継承・深化させていく必要がある。併せて保護者や事業所等を巻き込んだ取組に広げたい。
		・ICTの効果的な活用を踏まえた効率的な授業づくりが展開できたか。	・ICTの効果を職員一人一人が把握し、児童生徒の実態に応じた教材を選択して授業づくりを行う。	・ICT教材の使用の有無を含めて授業後に評価と教材の見直しを行い、ICT教材の有効性について、職員の意識を高める。	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成。他分掌部との連携を深めICTを活用しながら、授業と評価の一体化を実現した。 ・教室外で学ぶ児童生徒の補助教具としてiPadの有効活用も実現した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降の端末変更と児童生徒の端末利用の在り方について、保護者や事業所と今まで以上に連携を図っていく時期にさしかかった。併せてJAET更新に伴う教職員の情報活用能力と情報モラル指導力の向上を図りたい。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	・キャリア教育の視点を踏まえ、将来のために今の生活や学びをつなげることができたか。	・系統性を意識したキャリア教育の充実を図る。 ・児童生徒が将来の働く生活をイメージできるよう、各関係機関と連	・各学部の実態に応じたキャリア教育の取組状況を共有できるよう学部を越えて取組を紹介する機会を設ける。 ・卒業後の生活を考える進路学習を充実させるとともにマッチングを重視した進路面談を行う。 ・各関係機関と情報共有を密に行	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的方策は実施。各学部の発達段階に応じたキャリア教育の推進と授業を関連付け計画的な授業展開を実施した。 ・卒業生とその保護者、事業所、実習先及び学部間の連携を図り、児童生徒一人一人にあわせた進路面談の実施は、児童生徒のウェルビーイングにつながる初手となった。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数の増加に反し

			携を図りながら、高等部現場実習や中学部職場体験を設定する。	い、実習に関するアドバイスをもらう。		天草管内における実習先及び就職企業は限りがある。本校の児童生徒が、地域や人のためにできることを具体的に発信し、児童生徒のよさを広めていきたい。
	進路に関する情報発信	・進路に係る情報提供ができたか。	・児童生徒、保護者や担任に対し、進路情報を定期的に提供する。 ・教職員やPTAを対象とした進路研修を実施する。	・保護者のニーズに沿った進路情報を「進路だより」で発行する。 ・進路面談で高等部生徒、保護者が卒業後の進路選択ができるよう、事前に担任と進路情報を共有する。 ・教職員やPTA役員の意見を踏まえて、PTA進路研修、教職員進路研修を実施する。	B	【成果】 ・具体的方策は実施。「進路だより」や進路面談では、リアルタイムな情報を発信しながら児童生徒及び保護者が将来を見据え、学校と共に今の学びを客観視する材料を提供した。 【課題】 ・PTA進路研修等では保護者間で進路に対する意識の差が顕著となり、児童生徒の進路選択の幅を狭める可能性が否めない。保護者に対して、保護者が必要としている内容を捉えた有効で必要性のある情報を厳選し、的確に伝達する仕組みの構築が必要である。
生徒 (生活) 指導	交通安全指導の充実	・登下校時の交通ルール遵守を含め、交通安全に係る指導を徹底できたか。	・外部情報の活用や関係機関と連携し、交通安全に係る意識の向上を図る。	・登下校指導を計画的に実施する。 ・警察と連携し、交通安全の取組や交通安全に関する最新の情報を児童生徒及び保護者に提供する。 ・居住地の危険箇所を確認し、児童生徒及び保護者と共有する。 ・自転車乗用中のヘルメット着用の奨励を児童生徒会から発信する。	B	【成果】 ・具体的方策は実施。高等部では生徒会発信による交通安全についての周知徹底を図った。小中学部校舎改修工事に伴い、保護者・事業所の協力を得ながら、事務部及び学部主事を中心とした交通誘導が定着した。次年度以降の自転車乗車時のヘルメット着用については着手済み。 【課題】 ・高等部では将来の生活を見据え、公共交通機関の利用や自転車等の運転技術・マナーの指導充実が望まれる一方で、危険性が伴うことから、入念な計画と地域・保護者による理解の啓発を学校から促していきたい。
	生徒会活動の充実	・児童生徒の主体的な取組を推進できたか。	・全校集会や「天草支援学校いじめ0宣言」など、児童生徒会で企画・運営する。 ・児童生徒会が中心となり、校則の	・児童生徒会で定期的に話し合える場を設定し、各学部が連携して主体的に活動できる環境を整える。 ・全児童生徒の意見を集約できるよう校則に関するアンケート調査を実施する。	A	【成果】 ・具体的目標は達成。全校集会では学部校舎の隔たりをICTで埋め活発な児童生徒会活動が実現した。集会の司会進行は児童生徒で行われ、このことは児童生徒の達成感及び自己肯定感につながった。 ・校則については内容の見直し及び施行済み。 【課題】 ・教職員が発達や理解が異なる児童生徒に対して具

			見直しを行う。			体的な手立てや指導を行うには、適切な状況判断力が必要となる。機会を捉えては教職員の資質向上を図る。
人権教育の推進	人権教育及び命を大切にすることを育む指導の充実	・児童生徒及び職員の人権意識を高めることができたか。	・全ての児童生徒及び職員が、各々の経験や体験から人権について自律的に考え、行動できる。	・校内研修の内容について、身近なテーマで人権感覚を働かせながら協議できるようにする。 ・児童生徒の実態に合わせて系統的に人権教育を実施できるよう、学部を越えて情報を共有し合う。	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成。計画的且つ具体的な校内研修の企画・立案がなされ全教職員が人権意識を高める機会を得たことで、教職員の在り方が児童生徒の人権教育推進に直結することの理解につながった。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学校活動で人権意識を持った教職員及び児童生徒となるために、互いに認め合い、注意し合える環境の恒常化に努めたい。
いじめの防止等	未然防止・早期発見・早期対応	・いじめの未然防止・早期対応の充実を図ることができたか。	・教職員に対し、いじめ事案における組織的な対応について周知し、未然防止・早期発見・早期対応の意識向上及び実践の徹底を図る。	・年2回のアンケートによる情報収集に加え、児童生徒がSOSを出しやすい体制を整える。 ・職員研修を実施し、法令や組織的な対応の在り方について理解を深める。	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的方策は実施。日頃の学習活動の様子や年2回のアンケートによる情報収集及び「いじめ防止対策委員会」での協議内容を連動させ個別の教育相談や進路相談で保護者等に共通理解を図りながら児童生徒の実態を互いに把握することで組織的な対応を図ることができた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が発達や理解が異なる児童生徒に対して具体的な手立てや指導を行うには、適切な状況判断力が必要となる。機会を捉えては教職員の資質向上を図る。
地域支援	幼保小中高等学校への支援の充実と関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中高等学校への支援の充実を図ることができたか。 ・関係機関との連携を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談等において幼児児童生徒の実態及び園内・校内支援体制を踏まえた助言を行う。 ・天草地域特別支援連携協議会事務局校として、天草教育事務所と連携し、各種会議を機能させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困り感のある子供の言動の背景に目を向け、指導支援について肯定的に考えることができるよう、現場の先生方を側面からサポートする。 ・天草地域の特別支援教育に関する課題やニーズを明確にし、関係機関との連携を図る。 	A	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成。Coの派遣実績は過去最多となり、天草管内における課題やニーズを可視化し教育機関の活性化を実現した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・幼保時の指導支援を就学後の最適な学びにつなげるには保護者の理解も必要となるため、特別支援教育の理解・啓発を行いながら、適切な「学びの場」の判断を行政等と協力しながら促したい。 ・次年度は本校の児童生徒に対する教育相談の充実を更に深めたい。
地域連携(コミュニティ・スクール)	地域とともにある学校づくり	・各サポート体制の充実を図り、めざす学校像を	・CSビジョン図において、防災教	・様々な形式を活用した全体研修を行い、本校の	B	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的方策は実施。文科省指定事業を鑑み本校CS

など)	り	実現できたか。	育の視点から本校の実態や取組目標の共有を図り、CSの3つのサポートチームでの取組目標の8割達成を実現する。	CSの取組について全教職員で共通理解を図る。 ・防災教育を追記した3つのサポートチームの取組計画及び内容を学校運営協議会委員と共有し、PDCAサイクルを機能させる。		組織を防災教育に特化したことで、地域と本校及び天草拓心高校と連携した防災意識の向上を図った。特に高等部では高校側の教職員に対して本校の生徒理解を含めた防災に係る充実した取組が実現した。 【課題】 ・過去のCSをより深化させ本校における不易と流行を鑑みた方向性の打診が必要とされる時期を迎えている。今後、本校の在り方や方向性を含め、抜本的改革を視野に入れた組織形態の構想を持つ必要性がある。
	県立天草拓心高等学校との連携	・県立天草拓心高等学校との連携協力体制を充実させることができたか。	・施設、設備を円滑に共有、活用しながら、教育活動の充実を図る。 ・体験活動や協働活動、行事等で交流、連携を推進する。	・月1回の打ち合わせ会を含めて県立天草拓心高等学校の教職員との連携を深め、施設活用、諸活動に関する情報共有を綿密に行う。 ・共に学ぶことの大切さを共有できるよう、児童生徒に関する情報共有を組織的に行いながら、年間計画をもとに交流活動の機会を積極的に取り入れていく。	A	【成果】 ・具体的目標は達成。天草拓心高校の理解を経て、前年度より共同の学校行事等回数が大幅に増え、充実した教育活動が実現した。 ・高校側や教員間の情報共有から協働活動の依頼が増えた。 ・日常生活では生徒が廊下等で談笑する姿も見られた。 ・高等部校舎での入学者選抜検査が実施できた。 【課題】 ・高校と高等部で異なるルールや習慣を本校教職員が理解し、それを基に生徒へ指導・助言することが生徒卒業後の社会生活における共生への第一歩となる認識を持つ必要性を感じている。

4 学校関係者評価

年度当初の目標や具体的方策に沿って学校教育目標の達成に日々努力されている姿が見られた。これからも、学校運営協議会や学校評議委員会を通じた活発な学校教育活動の推進を期待している。特に防災に対する危機管理意識や組織的対応と地域連携には今まで以上の取組を期待している。

5 総合評価

- ・高等部移転3年目を迎え当初と比べ校種を越えた理解と連携が実現している。一方で小・中学部と高等部の連携が以前に比べ希薄にならぬよう校内体制の強化が必要となる。
- ・児童生徒指導では、今後更に多様化した対応が迫られる。保護者や地域にも理解啓発を図りながら児童生徒の健全育成を推進する必要がある。
- ・自己評価総括表から、全ての教育活動に係る「不易と流行」を捉えることを目的とした教職員の資質向上は継続した課題として捉えることができる。

6 次年度への課題・改善方策

- ・年度当初から、多様な児童生徒の対応するために、引継ぎの組織化と教職員の理解を強化する。
- ・一人一人の児童生徒に沿った生徒指導や教科指導を充実するために、保護者や事業所との協働と連携を強化するための具体的な組織の再構築を図る。
- ・新学習指導要領に対応しうる授業と評価を実現するため、継続した校内及び自主研修を強化する。